

Tairaida® (たいらいだ)

自らを守りながら他社の権利も侵害しない平和なビジネスを

ペンスタンドやスマートフォンスタンドなどの身近なアイデアグッズを開発し、微笑みとともに市場に届けている。争いではなく、面白いものをモチベーションとする世界観で創造的なビジネスを行い、そのビジョンは「ビジネスはアート」。産業交流展などのイベントにも積極的に出展し、楽しいアイデアがさまざまな業界の人々の関心を集めている。

主な権利

2016年：特許 第5933091号
2016年：特許 第5937732号
2017年：商標登録 第5944719号
2017年：商標登録 第5948788号

会社概要

所在地：東京都港区台場 1-3-2-2006
電話：03-5531-1681
URL：http://tairaida.com
業種：アイデア商品の企画・販売
創業：2016年（平成28年）



代表：古瀬 由美子さん（右）
古瀬 淳史さん（左）

「平和になった」という意味の社名がすべての根幹となる

Tairaida®(たいらいだ)というユニークな名前は、平らいだ(平和になった)という意味。2016年の創業時に、競争や争いとは別のモチベーションで事業を行いたいという想いを込めて名付けられた。そのビジョンは、「ビジネスはアート」。創造的なビジネスは、アイデアを形にして世の中に届けるという意味でアートと同じである。競争の原理が先にあるのではなく、世の中の平和やハッピーに貢献する創作活動として、事業を推進したい。そんな想いが込められている。

だからこそ、アイデアとともに大切にしているのが、周囲とのコラボレーションだ。大田区の「おおたFab」という市民工房で製品の試作を行ったり、友人が活動している福祉作業所と連携するなど、協業のしくみを大事にしている。商品の販売においては個別対応ではなくB to Bを中心にロットを確保し、無理せず仲間とともに歩んで行く方針だ。

アイデアを形にしているから権利化することはとても大切

開発された商品はどれもユニークで、ほっこりと心が温まるものばかり。例えば「Penstandclip®(ペンスタンドクリップ)」は、ダブルクリップとのセットでメモ帳のそばのペン立てになるもの。1枚の亚克力板にマグネットをはめ込んだもので、要望に応じて亚克力板にレーザー彫刻や画像のUVプリント印刷ができる。ノベルティや記念品などにも最適なグッズで、省スペースを実現する優れたもの。ホームページにアップされている動画を見ると、その楽しい使い方がよく分かる。2016年に特許を取得し、2017年には商標登録している。

ユニークなアイデアを形にしている仕事であるため、アイデアの権利化はとても大切にしている。開業する前の2015年12月に、試作品製作依頼のための秘密保持契約の相談で、初めて知財センターを訪れた。古瀬由美子代表は、当時のことを「家庭の主婦ですし、何も分からない

状態で緊張しながら訪れましたが、契約のことを懇切丁寧に教えてもらい、とても安心できましたね」と振り返る。

スタートアップ仲間にも知財センターを教えたい

その後も国際特許や助成金、ロイヤリティ契約、さらには商標登録について相談を行った。古瀬代表は、「毎回親身に相談に乗ってもらいましたが、そのうちにまさか自分で商標を登録できるとは思っていませんでした。このことは、私のスタートアップ仲間にも伝えたいです。実際に私のほかにも、知財センターに相談しながら商標登録した人がいるんですよ」と語る。

新たなビジネスモデルによって起業するスタートアップ。古瀬代表は女性起業家たちとのつながりもあり、積極的にバイタリティあふれる人々とイベントなどを企画し活動しながら情報交換している。そして、そのような場でも多くの人たちが、知的財産に関心を寄せているという。



スマートフォンスタンド「Tateta(たてた)」は、1枚の薄い板に穴を開けたシンプルなデザイン。材料、形状、絵柄など要望に合わせてオリジナル製作ができる。



「Penstandclip®(ペンスタンドクリップ)」の「Canvas(キャンパス)」は、ダブルクリップとの組み合わせで簡単ペンスタンドになるアイデア商品。



「Penstandclip®(ペンスタンドクリップ)」の「Gallery(ギャラリー)」は、亚克力の透明性を生かし、インデックスプリントのような小さな写真などを挟むことができる。



木の風合いが優しい、マグネットで貼り付くペンスタンドボックスのシリーズ。鼻の部分をフックに引っ掛けるなど、使い方はいろいろ。名入れによって記念のノベルティにも。



ペンスタンドボックス(Robo)の使用例

ビジネスにおける知財戦略は安心を買うための必要経費

社名から知財にまでつながる面白い話を、古瀬淳史氏が語った。「Tairaida®という名前を付けている以上、他の企業や個人に迷惑がかからないようにしたいんです。この名前なのに争いを起こしていたら、しょうがないですからね。他社の権利を侵害せずにビジネスを行うためにも、知財に関する知識は必要です。よく理解していないと、自分たちがやろうとしていることとの間にギャップが生まれて、不安になります。それを解消するためにも、知財センターのアドバイスはとても有効だと感じますし、無料でいろいろな疑問がすぐに解決するので、スピード感のある商品開発にもつながります。後は商品を売り出してから他社が攻めてくる場合がありますから、「転ばぬ先の杖」みたいなもので、争いを避けるためにも知財の権利化が必要だと思います。勉強すればするほど、そう感じますね」

古瀬代表も、「小さな組織ほど、特許を

取得していることは重要かもしれませんが、展示会でも『これ、特許取ってるんですね。どこが特許なんですか?』などと聞かれることがよくあります。安心を買う必要経費みたいなもので、ビジネスに必ず盛り込むべきことが知財戦略だと考えています。『知財なんて気にせずに、さっさと売った方がいい』と言う人もいますが、そういうやり方では不安が膨らんでしまいます」と語った。

ハッピーな気持ちになる関係性から明日の地平へ

今後については、「続けていく」ことをキーワードに、あるべき姿で協業などを継続させて行きたいと古瀬代表は語る。「私たちの理念やビジョンに共感してい

ただける企業と、いっしょにモノづくりができればいいと考えています。ゆっくりでいいんです」

思わず微笑みが漏れるアイデアのある商品たち。それらはしっかりした理念に支えられ、その理念は不要な争いを避ける知財戦略にも支えられているようだ。「権利を持つことは自分たちを守ると同時に、他社への侵害もしていないことを意味します。平和にビジネスすることが、Tairaida®の理念です」と語られるように、ハッピーな気持ちになる世の中との関わり方を、小さな組織がしっかりと考えながら体現している。その先には、穏やかな明日の地平が見えているようだ。

知財
センター
から

中小企業に限らず個人事業主の知財もサポート

商標に関する相談を受け、本人手続きによって登録できるようにアドバイスしました。契約関係については、専門のアドバイザーが別途相談を受けています。創業して間もないのに知財への意識が高く、取り組みはたいへん立派だと感じます。こうした個人事業主の方も遠慮なく当センターを活用してほしいと思います。担当：秋葉原 大仲アドバイザー